

多様性が あたりまえの 社会を めざして

第8回

多文化社会実践研究・
全国フォーラム

要事前申込み (定員200人)

入場無料 (懇親会のみ3,000円)

日時: **2014年12月13日**(土) 13:00~18:00・懇親会18:15~19:30

場所: 東京外国語大学 府中キャンパス (西武多摩川線 多磨駅徒歩 5分)

申込&プログラム: センターHP <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>



主催: 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター TEL.042-330-5441

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

後援: 内閣府 総務省 法務省 外務省 文部科学省 関東弁護士会連合会 府中市 調布市 一般財団法人自治体国際化協会
公益財団法人武蔵野市国際交流協会 東京学芸大学国際教育センター 異文化間教育学会 移民政策学会 多文化間精神医学会
日本言語政策学会 公益社団法人日本語教育学会 日本社会教育学会

第8回

多文化社会実践研究・ 全国フォーラム

外国人労働者受け入れ是非をめぐる議論が、再び盛り上がりを見せています。さらなる少子高齢化を見据え、外国人女性の家事や育児分野への導入も政府によって検討されていることが発表されました。将来の日本社会のことを構想する際、外国人移住者の受け入れの問題を考えることは避けて通れないでしょう。これまで外国人住民を多数受け入れてきた自治体や地域社会では、多くの課題と直面しながら、それを解決しようと様々な取り組みを実施してきました。今こそ、

改めて外国人住民との共存共生が問われるのではないのでしょうか。

こうした日本の社会を問い直すうえで、本学多言語・多文化教育研究センターが大切にしたいと思う点は、実際に外国人住民の支援やまちづくりを実施している現場からの議論です。加えて、諸外国の知見を詳らかにすることによって日本社会を相対化することでもあります。

そこで、本フォーラムでは「多様性があたりまえの社会をめざして」をテーマに、「多様性」を所与としながら国民国家を形成するということはどのように追求できるのか、多文化共生社会とはいったいどのような社会なのか、多様性が尊重され、それがあたりまえとなる日本社会のあり方とはいかなるものなのか、を論じていきます。

◎ プログラム

2014年12月13日(土)

13:00

●挨拶 青山 亨(多言語・多文化教育研究センター長)

13:05
13:30

●基調講演 立石 博高(東京外国語大学長)
「スペインにおける多文化共生とは」

13:40

●研究発表セッション (13:40~15:50)

◇個人／グループ発表

日本の多言語・多文化化に取り組んでいる研究者及び実践者(自治体、国際交流協会、NPO等の職員等)による発表
(発表者・発表内容は、10月下旬以降センターHPにてご案内します)

●特定課題セッション (13:40~15:50)

◇コミュニティ通訳研究報告

- ・倫理綱領策定に向けて
- ・遠隔通訳技能と認定制度

◇多文化社会コーディネーター研究報告

- ・認定制度実施に向けて ～専門職の知と評価の方法

15:50

16:10

●パネルディスカッション
「多様性があたりまえとなる社会とは？」

○パネリスト(五十音順／敬称略)

石田 光(株式会社夢道s代表取締役)

小林 普子(特定非営利活動法人みんなのおうち副代表)

友常 勉(本学国際日本研究センター准教授)

山内 由理子(本学大学院総合国際学研究院特任准教授)

○モデレーター

18:00

長谷部 美佳(センター特任講師)

18:15

●懇親会(アゴラ・グローバル1F)

19:30

参加者同士の交流を通してネットワークを広げてください。

申込方法

本センターHPの申込フォームからお申し込みください。

[http://www.tufs.ac.jp/
blog/ts/g/cemmer/](http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/)

※インターネット環境のない場合は
下記にご連絡ください。



問い合わせ

東京外国語大学
多言語・多文化教育研究センター

Tel.042-330-5441
Fax.042-330-5448

当日参加された方で希望者には



「在日タイ語圏児童
のための漢字教材」
(2年生／3年生)
印刷見本版をさしあげます。

※お1人様／1団体1冊とさせていただきます。

※詳細はセンターHPをご覧ください(内容等若干変更する場合があります)。